

黒字倒産を回避するには-その2 (黒字倒産その3)

平成 25 年 3 月作成



前回のコラム No.009 では黒字倒産を回避する方法のうち、代金の決済期間の変更を検討しました。今回はそれ以外に黒字倒産を回避する方法を2つ検討してみたいと思います。

まずは、資金が足りないときに最もよく使われる手段、「借入金」の活用について検討します。コラム No.008 で検討した時には4月には資金不足となってしまいました。そこで、3月にとりあえず運転資金として50円の借入れをしました。

	期首	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
資金	60	50	10	50	35	20	15	
	増加	0	0	90	50	60	70	
	減少	10	40	50	65	75	75	
借入金	借入			50				
	返済				5	5	5	
取引内容								計
売上		40	50	60	70	80	90	390
仕入		30	40	50	60	60	60	300
その他の経費		10	10	10	10	10	10	60
利益		10	15	20	25	30	35	135
在庫		10	25	45	70	90	105	105

今回は資金の流れが一つ増えた（借入金及びその返済）ため、矢印も増え、表が見難くなっていますが、とりあえず上記表の範囲では資金不足にはならず経営を維持しています。このまま順調に売上が増えれば資金繰りも楽になっていくことが予想されます。

しかし、この**借入金を利用する場合に気を付けなければならない**のは、4月以降借入金の返済のための支払いが発生（今回は毎月利息込で5円）することです。これは返済のために**「事業活動収入（売上）がなくても資金の支払いが必要になる**」ということです。

では最後に、当初の取引の内容に問題がなかったかを検討します。表の一番下に今まで特に触れてこなかった「在庫」の欄があります。この**在庫は「仕入れたけれどまだ売っていない商品」**を意味します。つまり、お金は払ったけれども、まだ資金回収できていない状態です。上の表をよく見ると…売上が増える以上に在庫の量が増えていることがわかります。実は**今回のケースではこの「在庫の増加」が一番の問題**なのです。そこで在庫の量が増えすぎないように仕入を調整（毎月ほぼ同額）してみましょう。

	期首	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
資金	60	50	10	10	10	20	40	
	増加	0	0	40	50	60	70	
	減少	10	40	40	50	50	50	
取引内容								計
売上		40	50	60	70	80	90	390
仕入		30	30	40	40	40	50	230
その他の経費		10	10	10	10	10	10	60
利益		10	15	20	25	30	35	135
在庫		10	15	25	30	30	35	35

すると、借入をしなくても、決済期間を変更しなくても事業活動が継続可能となりました。在庫は無いと事業活動が継続できませんが、増えすぎると事業活動に支障をきたすことになるのです。**在庫管理は売上が増えているときほど重要**ともいえます。

いかがでしたでしょうか？以上で黒字倒産に関する連載を終了したいと思います。